江東区立深川第八中学校

八　汐

令和元年９月１２日発行
第１３号「学び」号
発行人　校長　栗 生 忠 義

教育目標　「自主・自立－豊かな心を持ち、自ら学び、心身が健康な生徒を育成する－」
URL　http://fuka8-chu.koto.ed.jp　　e-mail　fuka8-chu@koto-edu.jp

「学ぶ」とは？

新指導要領による教育が、中学校では、２０２１年よりスタートすることになっていますが、その中に「主体的で対話的で深い学び」であるとか「学びに向かう力」という言葉が出てきます。

「学ぶ」とはどういうことなのか。考えてみたいと思います。

調べてみると現代の「まなぶ（学ぶ）」という言葉の語源は「まねぶ（学ぶ）」という言葉にあるようです。「まねぶ」はどのような意味であったというと
①まねる。まねて言う。
②（人が言ったことを）そのまま伝える。
③勉強する。教えてもらって身につける。
といったような意味で使われていたようです。

①の「まねる。まねて言う。」は現代語では「真似をする。」という言葉になったのではなでしょうか。
②の「（人が言ったことを）そのまま伝える。」は現代語では「伝える。伝言する。」という言葉になったと思われます。
③の「勉強する。教えてもらって身につける。」は現代語では「勉強する。習う。」という言葉になったと考えられます。

では、現代の「学ぶ」とは、どのようなことなのでしょうか？

中国の聖人、孔子の言葉を弟子たちがまとめた『論語』に次のような有名な言葉があります。
學びて時に之を習ふ、亦説ばしからずや。
（まなびてときにこれをならふ、またよろこばしからずや。）
学び続けて、いつでも活用できるように何度もおさらいをする。それは人生の大きな悦びではないか。といった意味です。
孔子は「学び」、「習う」ことは、人生の喜びだといっています。

先日読んだ城北特別支援学校教諭　植竹安彦さんのブログに次のようなことが載っていました。
『「学ぶことの意味」って何でしょう？』という題名で、奈良女子大学の浜田寿美男先生のお話しを引用して次のように述べていました。以下はその一部です。

浜田先生は、育つこと、学ぶこととは、「力をあらたに身につけ、その身につけた力を使って、あらたな世界を広げるということ」。それは、「歩く力が身につくということは、その力を使って歩行の世界が広がるということ」、「話し聞く力が身につくということは、その力を使ってコミュニケーション（関係）の世界が広がるということ」、「文字の力が身につくということは、その力を使って、読み書きの世界が広がるということ」と話されました。（中略）
人は、「自分の手持ちの力を使い、共同の場で何かをして、そのことで人が喜ぶのを喜ぶ。」
子どもたちは、「自らの力で自然に働きかけ、それによって人を喜ばせ、また自らが喜べる機会を持つことで自尊感情が育つ」のだという発達の大原則が（今の教育には）抜け落ちかけている、という投げかけでした。（中略）
「なぜ学ぶのか？」自分も中学生くらいのころに思った気がします。その時は、将来のためとしか思わなかったように思います。今、改めて教える側となり、「学ぶ」ということの意味を考えながら教育することが大切だと思います。試験の点数だけではない、子どもたちが自分自身のために「学ぶ」ということを大切に思える学校にしていきたいと思います。

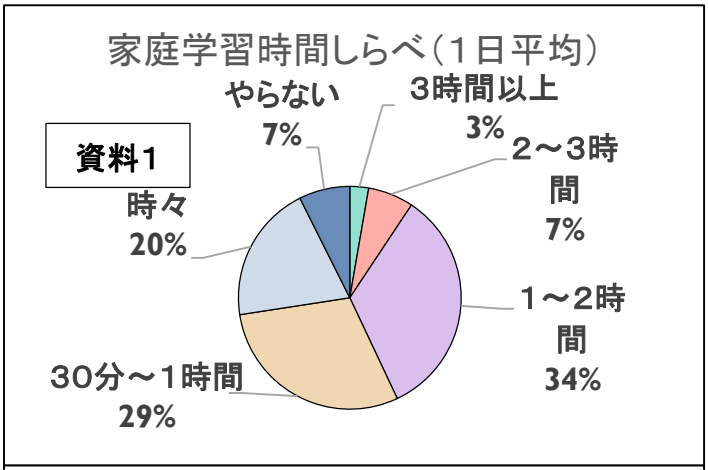
かつて東大の総長を務めた　佐々木　毅氏は『学ぶとはどういうことか』の中で、人は「知る」「理解する」段階で学んだと思って満足しているが、「知る」「理解する」「疑う」「超える」という段階を経て、「勉強」は「学ぶ」に発展する。その意味で「学ぶこと」は「生きること」そのものではないか。ということを述べられています。

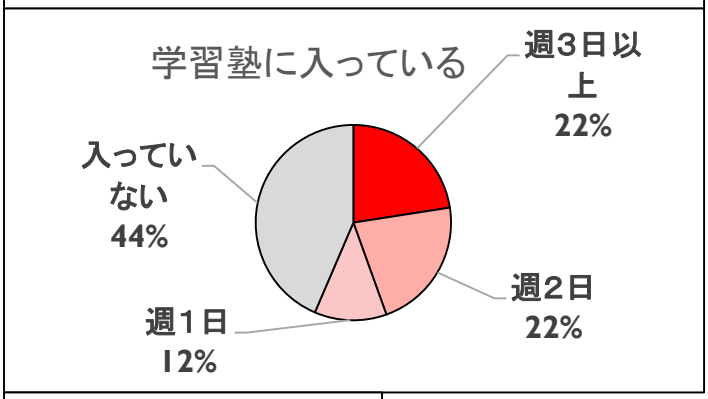
今の生徒クルーたちが、人生を豊かにし、楽しいものにするためには、「勉強」や「学習」を超えて「学ぶ」ことをしていく必要があるのではないでしょうか？
その意味で、「学び方」はそのまま「生き方」に繋がり、一生学び続けることが、人生を豊かにすることではないでしょうか。これからの時代はより「学ぶ」「学び続ける」ことが求められていると考えます。

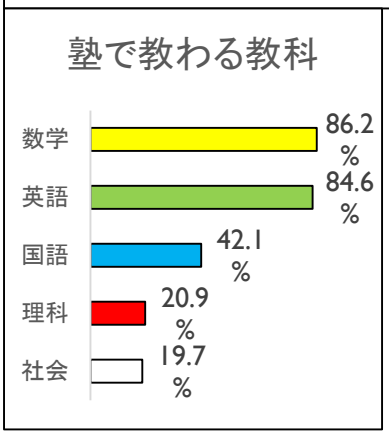
家庭学習とICTアンケート

4月の下旬に生徒の家庭生活についてのアンケートを採りました。その中に家庭学習とICT の利用に関する項目がありました。

家庭学習については、毎日やっている生徒が73%もいました。ただし、全くやらない生徒が7%（33人程度）約1クラス分もいることも事実です。

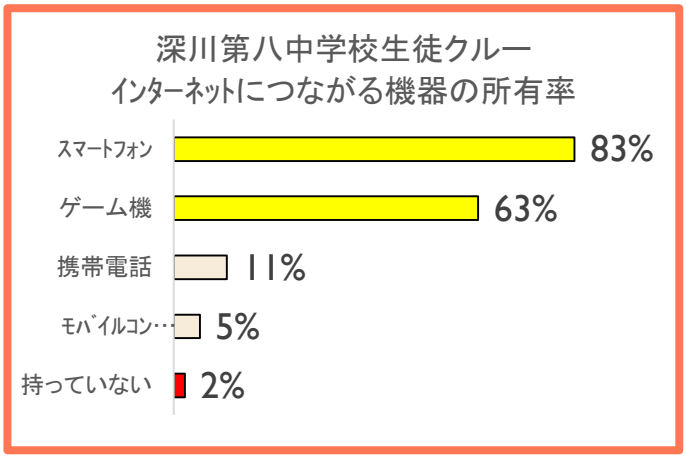


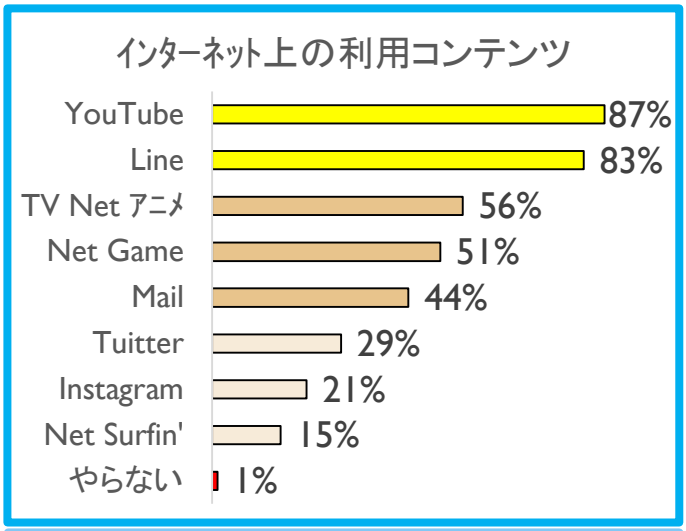


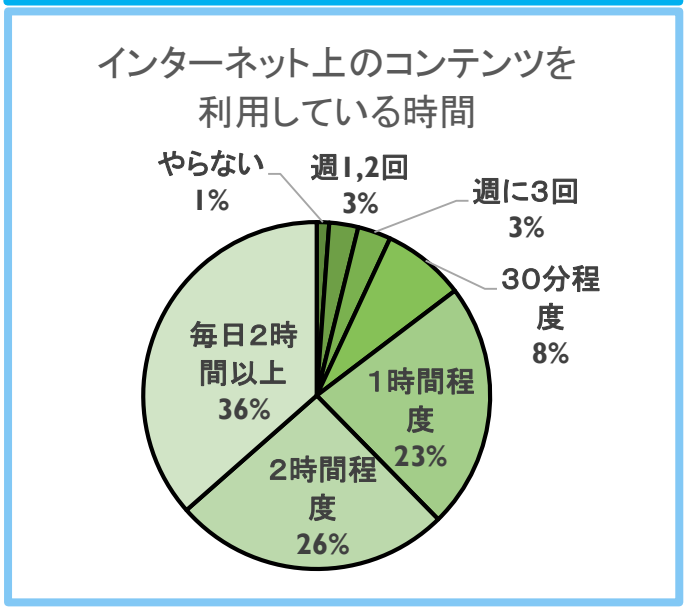


また,資料2のグラフでは、学習塾に入っている人の割合は56%半数強というところです。塾で教わる教科は積み上げ教科と呼ばれる数学・英語が断然多いという結果でした。

現代の生活の中でその大きなウエイトを占めるようになっているのが、スマホを中心とするICT機器によるさまざまなコンテンツの利用です。資料4・5にあるとおり、ICT機器を持っていない生徒は2%（10人程度）また、インターネット上のコンテンツを利用しない生徒は1%（5人程度）にとどまり、ほとんどの生徒がインターネットコンテンツを利用しているということになります。







資料6は利用頻度について聞きた結果です。毎日1時間以上利用する生徒が85%もいました。その中で毎日2時間以上利用している生徒は36%もいるという結果になりました。

すべてのコンテンツが学習を阻害しているとは言えないとは思いますが、使い方や接続する先を間違えると生徒の人生そのものに大きな悪影響を与える危険も潜んでいます。利用に関しては、家庭で何らかのルールを作る必要があるのではないでしょうか。